

## 河床で *Sweltsa* (ミドリカワゲラ科) 属の卵を見つける

○磯辺ゆう・大石正

(奈良女子大学、共生科学研究センター)

カワゲラ目の中の大きなグループが、卵に接着の装置をつけている。それはアンカーと呼ばれ、水中でかなり強い接着力を示す。アンカーの付け根を保護する役割をするものがカラーで、堅い卵殻の伸長したものである。しかし、このグループの中にも、カラーとアンカーを持たない単純な形の卵を産むものがあり、*Sweltsa* 属の卵がその代表である。このような卵は、産卵された後、流れて川岸の砂の中に行き着くのではないかと考えて、岸の砂の中に卵を探した。今回は発見することが目的であったので、特に存在しそうな場所について水際を中心に陸側と水側の調査を行った。

調査は、奈良県吉野川支流四郷川大又で、1999年5月から7月にかけて、4回行った。直径8cmの篩いを5段重ね、ひとにぎりの砂をふるった。さらに2回目の調査から、砂を採った後にしみ出る水を盃(32.5ml)の10杯こしとった。最も細かい2段階のメッシュ(500、250 $\mu$ m)に残った砂を持ち帰り、実体顕微鏡下で卵を採集して、透過型顕微鏡で確認した。卵は250 $\mu$ mの篩から採取された。

合計256個(3科10タクサ)の卵を確認できたが、その中で、アンカーとカラーを持たない*Sweltsa*属の卵は184(71.9%)であった。さらに、この卵は流れが当たる水際によく発見された。

産卵は、岸寄りではなく、白波のたつ瀬の中央に行われる。この卵はよく水に乗って流れて行き、岸の砂の中に落ち着くのではないかと推察される。